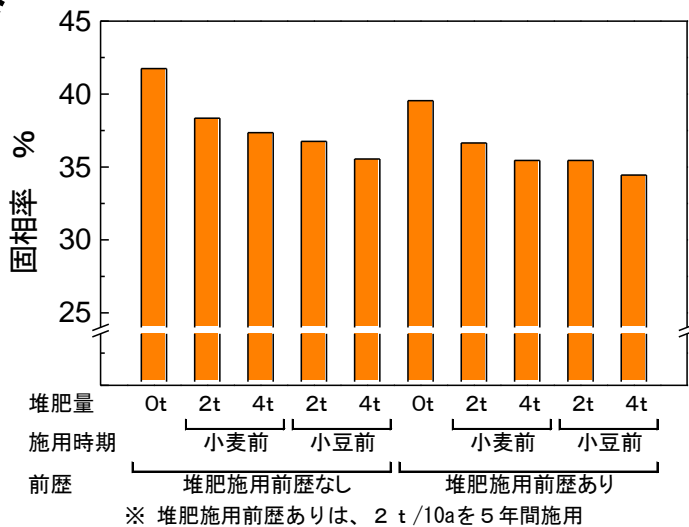


堆肥施用による小豆の収量向上技術

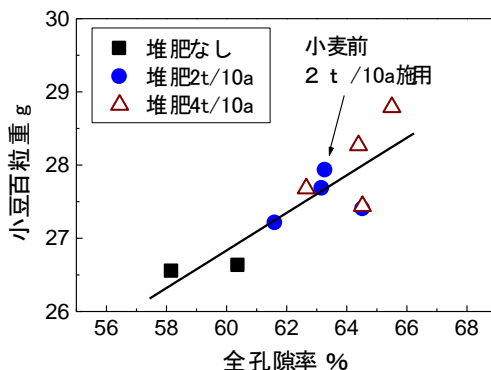
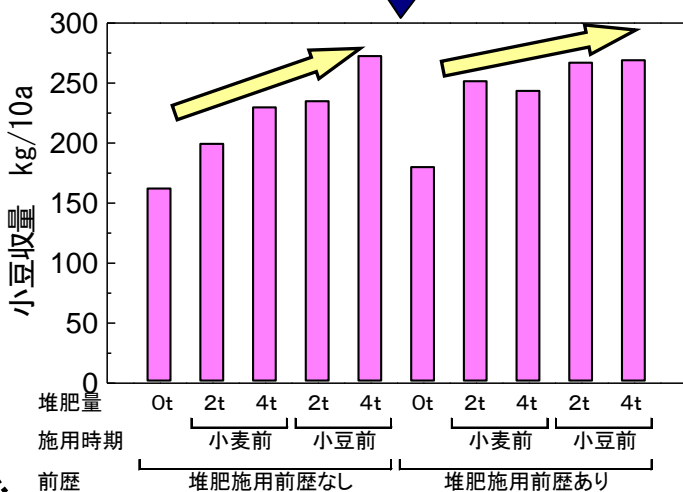
(農林センター 環境部)

「丹波大納言小豆」は、多雨や干ばつ等の影響で生育が不安定になりやすいことが課題ですが、小麦作付け前に牛ふん堆肥 2 t /10aの施用を続けると、土壌物理性が良好になり、収量が向上します。

牛ふん堆肥施用により小豆収量が35～50%向上



○堆肥施用により土の割合(固相率)が減り、土中の孔隙率が増加
○孔隙率が増加し、小豆の生育・収量が向上



○堆肥施用により孔隙率が増加すると、品質(小豆の大粒化)にも効果が見込めます。

- ・堆肥2t/10aでも、施用を続けることで小豆の収量向上効果が堆肥4t/10aと同等になります。
- ・小豆作付前に堆肥を施用し耕うんすると、梅雨以降ほ場が過湿になり播種適期を逃す場合があるため、堆肥は小麦作付前の施用が適します。

- ・小豆輪作体系(水稻一小麦一小豆)では、小麦作付前に堆肥2t/10a施用すると、小豆収量の40%増加※が見込め、小豆の粒重も大きくなります。

※所内試験では720千円/haの粗収入増加に相当(小豆単価千円/kgとして試算)

- ・小麦作付前の堆肥2t/10a施用(隔年2t/10a)は、水稻の収量品質にも影響がありません。

小麦前2t施用区の対無施用区比: 玄米収量101%(堆肥施用前歴なし)~100%(前歴あり)、玄米良質粒率100%(前歴なし)~94%(前歴あり)、食味値100%(前歴なし)~96%(前歴あり)。堆肥総施用量は施用前歴なしが4t/10a、施用前歴ありが14t/10a